

キリストがすべてです

春(3月・4月・5月)2022年

2月26日(土)、私は南日本の自宅から三重県的美濃ミッションへ、電車を乗り継いで向かいました。翌日、泊まった富田浜聖書教会で午前10時半と午後7時の礼拝で説教をしました。その翌週には、家々をまわりながら祈りのはがきを配り、多く歩きました。日本の住宅街を何時間も歩きながら、福音の種をまき、豊かな実りを祈ることは、私にとって大きな自由を感じる時です。同じことを祈ってくださる皆さんに感謝します。水曜夜7時半には富田浜教会で、翌木曜の夜7時には大垣聖書教会で説教をしました。「栄光！」でした。

土曜の朝には、2本の電車を乗り継いで安城市の宣教師ジェフ・ブリガム兄弟の教会へ行き、彼と息子ルークと共に教会スペースで昼食をいただきました。そこで日本での伝道について祈り、神からそれぞれに与えられている知恵を分かち合いました。翌日3月6

日(日)、私は彼の教会スペース(小さな 2 階のオフィスを借りている場所)で説教しました。(もし神の御心であれば、ジェフ牧師のためにより大きな施設が与えられるよう祈ってください。彼の地域では賃貸物件や建物は非常に高額で、小さな群れには購入や建築は到底不可能です。)また、日本人の妻・恵子さんが深刻で稀な健康問題を抱えているため、彼女の健康のためにも祈ってください。

この 3 月 6 日(日)、私はまず午前 10 時半に大垣聖書教会で説教しました(富田浜教会から 2 本の電車に乗って行きました)。その後、大垣市から安城市へ電車で移動し、徒歩 5 分でジェフの教会に着き、午後 1 時半の英語礼拝で説教しました。(午前 10 時半は日本語礼拝。午後の英語礼拝には多くが中国人やフィリピン人です。)

その日、神は非常に祝福された礼拝を与えてくださいました。そして再び電車で富田浜教会へ戻り、附属施設で 3 人の教会員と夕食を共にし、その後午後 7 時

の礼拝でも説教しました。翌朝 3 月 7 日、私は富田浜駅を 5 時 24 分に発つ電車に乗り、日本での「主な」住まいへ帰りました。これは昨年 12 月初めから始まった大きな祝福の巡回を締めくくるものでした。

近年、日本の既存教会で説教する機会をいただくとき、聖霊は必ず「ヘブル人への手紙 13 章 13 節」を説教に織り込むよう導いてくださいます。私は暗唱しましたが、皆さんもぜひ覚えてください。

「そういうわけで、私たちは、御辱めを忍んで、宿営の外にいるキリストのもとに出て行こう。」

しかし多くのラオデキヤ的な教会人は、誇りや人からの称賛を愛しすぎて、この栄光ある招きに応じず、世の中で公然と救い主イエス・キリストを高く掲げようとしません。

日本の数少ないクリスチャンの中でも、仏教社会の中

で公にキリストを崇めることを拒む人がほとんどです。彼らに聖なる大胆さが与えられるよう、また同じ状況にある方は自分のためにも祈ってください。

私は「裁き主キリスト」がまもなく私たちを御口から吐き出されることを信じています。それはすでに始まっており、生ぬるい教会人である私たちには、死と苦痛と苦難が増し加わり、「惨めな私、なんとひどく罪を犯し、心を尽くして主を愛することに失敗したのだろう」と泣き叫ぶようになるでしょう。

「シオンで安逸をむさぼる者はわざわざいだ」(アモス 6:1)

「眠っている者よ、目を覚ませ」(エペソ 5:14)

主の聖なる御口から吐き出されることは痛みと衝撃に満ちた「目覚まし」となり、死んだように生ぬるいラオデキヤ的な信徒を揺さぶり、主にどれほど忌まわしい存在であるかを自覚させるでしょう。

「主イエスよ、私たちの死んだラオデキヤの骨を生き返らせてください！」

これまで私は、日本での「主な」住まいの近くの松井田町の学校の登校時間帯(午前7時半～8時20分)に、校門近くで賛美歌を歌ったことはありませんでした(これまでは下校時間に行っていました)。

しかし3月7日に帰宅したとき、主が「登校の時にも出て行きなさい！」と示されたので、すぐに近隣の小学校・中学校・高校の校門で朝の賛美を始めました。それは大きな祝福となっています。

4月29日、軽井沢の救済ミッションを再び開きました。多くの失われた魂が前を通り、数人は中へ入ってきます。ほとんどが仏教徒です。彼らの救いのためにとり

なしをお願いします。

私は軽井沢の救済ミッションのガラス扉に「英会話を教えます」と掲示しています。昨年6月から10月まで、地元の3人の母親が5人の子ども(5~9歳の2人の女の子と3人の男の子)を毎週25分間の英語クラスに通わせました。最初は子どもたち自身が強く反対しました。日本の公教育は非常に抑圧的で、子どもたちに知識を詰め込み、神のように優れた存在にしようとしています。その結果、思春期に自殺したり親を殺したりする子が出るほどです。私は最初から3家族の救いを祈り、授業をできるだけ楽しくしました。やがて子どもたちは楽しむようになり、毎回最後に寄付でもらった品物からプレゼントを選ばせました。今年も5人中4人が続けています。どうかこの3家族の救いのために祈ってください。

また、以前お願いしたように、英会話を教えている日本人の高齢女性たちの救いのためにも祈ってください。例えばTさん(70代半ば、元小学校教師)は外見は

優しい方ですが、心の中では創造主なる神に頑なに反抗しています。私はそのような日本人仏教徒に定期的に接触できることを神に感謝します。

Tさんは死への恐怖にさいなまれ、以前の授業で「自分が死んだら魂が天に昇り、地上を見下ろしながら天国へ行く」と言いました。彼女は慰めを得ようと「幸せな結末」を自分の心で作りに出しているのです。私は優しく「もし近いうちに死ぬとしたら、それが本当に起こるかどうか創造主なる神に尋ねてみてください」と勧めました。しかし彼女は強く拒否しました。どうか彼女とその家族の救いのために祈ってください。

「仲介する者がいなかった」(イザヤ 59:16)——聖書に「仲介者」という言葉が出る唯一の箇所です。悲しいことにその前に「いなかった」と書かれています。

皆さんからいただくすべての良き行いは、私を大いに

励ましてくれます。神があなたを大いに祝福してくださいように。

主イエス・キリスト の しもべ
サム・ヤービー